

日本における新バスケットボールリーグシステム案  
—海外リーグシステムをケーススタディとして—

A New Scheme for the Basketball League system in Japan  
- With the Case Studies of the Abroad League System -

1K09B019-6  
指導教員 主査 間野義之 先生

伊藤俊  
副査 木村和彦 先生

【目的】

我が国のバスケットボールの発展が遅れている理由の一つとして、牽引する存在であるトップリーグの在り方の問題があげられる。JBAは統合案を提示したが、完全プロ化に対していまだに消極的な姿勢から、bjリーグによって統合案が拒否された。現在は統合ではなくNBLという新たなリーグを作り、国内バスケットボールの発展のために準備している。2013年秋に開幕予定である。そこで、現在のトップリーグであるJBLとbjリーグを調査・分析し、問題を把握したのち、海外リーグの成功事例を参考に、今後の新リーグの在り方について検討することを本研究の目的とする。

【方法】

インタビュー調査と海外の事例調査を実施した。インタビュー調査は、2012年12月11日正午より、2時間程度実施した。バスケットボールの仕事に長く携わっているA氏にインタビューを依頼し、現場レベルでの具体的な問題についてのインタビューを実施した。A氏はアルゼンチンバスケットボールにも精通しており、LNBについても調査させていただいた。海外事例は、アルゼンチンのLNB、中国のCBA、ヨーロッパのULEBを取り上げた。それぞれの成功要因を明らかにし、トリプルミッションのどのミッションに属するかを判断した。

【結果】

JBLは優れた選手が多いが、経営不振に陥っている。bjリーグはビジネスとしては成功と言えるが、エンターテインメント性が強く、世界で活躍する選手の育成は難しい。

どのようなリーグが望ましいのか、東野智弥氏へのインタビューと海外の成功リーグの事例を参考に考えた。東野氏は日本のトップリーグが本気では世界基準を目指していないことが問題であると述べた。また、自身が勧めている、チーム福井について海外リーグは、アルゼンチンは世界基準

をベースに、選手の育成、強化の方法を示している。中国はメディアの露出効果、実力のある外国人選手の登用など、普及面での一方向を示した。ユーロリーグは、日本やアジアリーグの未来のモデルリーグとなった。

【考察】

新リーグのすべきことは、世界のレベルに達する選手、つまりNBAで活躍できる選手を多く輩出することである。

トリプルミッションの①「勝利」、②「普及」、③「市場」の面に対してそれぞれ目標と戦略を練る必要がある。

①完全なプロリーグとし、競争力を高める。リーグの選手、ジャッジ、コーチを世界基準にするために、海外留学プログラムや海外から雇用し、資格を取得したレフェリーや監督などでリーグを構成する。また、試合数を多くするために、トーナメント制ではなく、リーグ戦を実施するなど、試合方式を変化させる。

②各チームにクラブを持たせ、地域に密着したクラブチームを形成させる。にすることが重要である。海外で学習してきたトップチームに就いているコーチや監督、レフェリーの知識を下部組織に直接的に伝えることで、ボトムアップ、一貫性を図る。トップチームと、総合型地域スポーツクラブが連携というよりも、同じ一つのクラブにすると良いのではないかと考える。学校施設などを使っているため、施設がないという心配はない。だからトップチーム傘下のクラブチームとして、クラブは専門的な知識を得られ、知名度は上がるし、トップチームは地域への密着度が高まる。地域のシンボルとなれば、スポーツツーリズムなどの経済効果も期待できる。

③メディアでの露出を意識した、誰もが観て興奮するようなリーグにする。チケット収入と同時に放映での収入も見込む。そのためには、プレーのレベルを上げることが望まれるので、結局「勝利」の面に帰結する。